

# データベースの自動配置機能 (CSVデータの差し込み印刷)

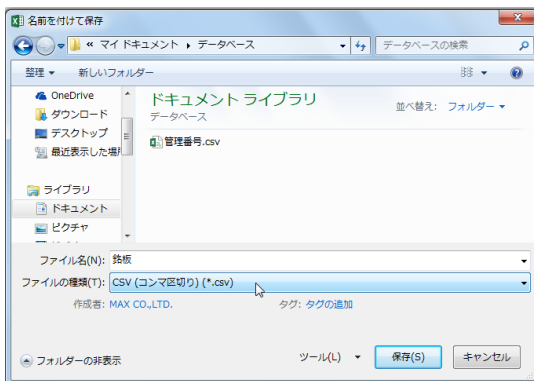
製品リストや管理台帳など CSV 形式 (Excel から形式を指定して保存) で作成されたデータベースを取り込んで、ラベルや表示を作成する機能です。

## ① リンクさせるデータベースを Excel で作成します。

	A	B	C
1	製造年月	製造番号	
2	2018年10月	18A225001	
3	2018年10月	18A225002	
4	2018年10月	18A225003	
5	2018年11月	18B225001	
6	2018年11月	18B225002	
7	2018年11月	18B225003	
8	2018年12月	18C225001	
9	2018年12月	18C225002	
10	2018年12月	18C225003	
11	2018年12月	18C225004	
12	2018年12月	18C225005	

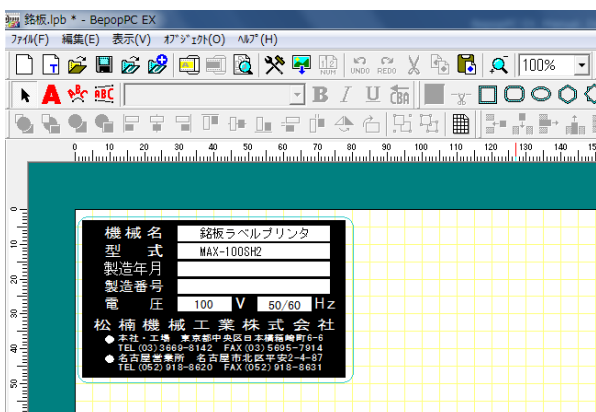
## ② 「名前を付けて保存」で、ファイルの種類から「CSV (カンマ区切り) (\*.csv)」を選び保存します。

例として「銘板」と名前を付けて保存します。

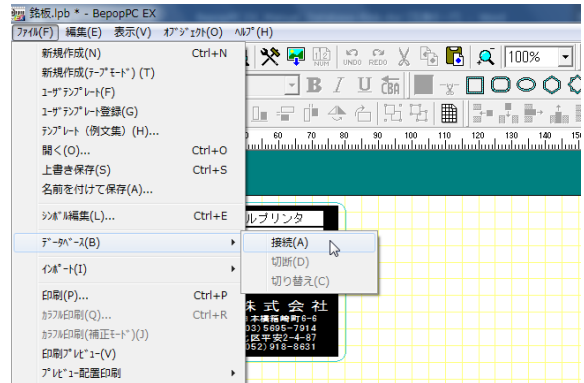


※必ずデータベースファイルは閉じておいてください。

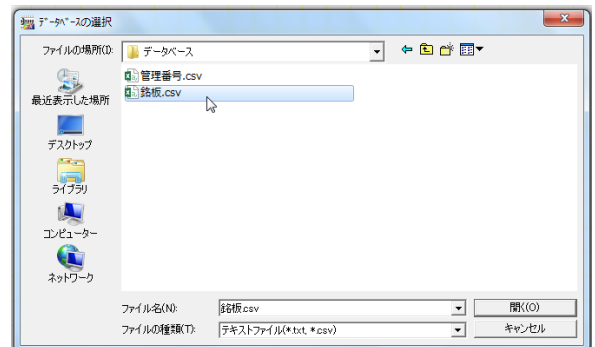
## ③ データベースとリンクさせるオブジェクトを作成します。



## ④ メニューバーの「ファイル」- 「データベース」- 「接続」を選択します。

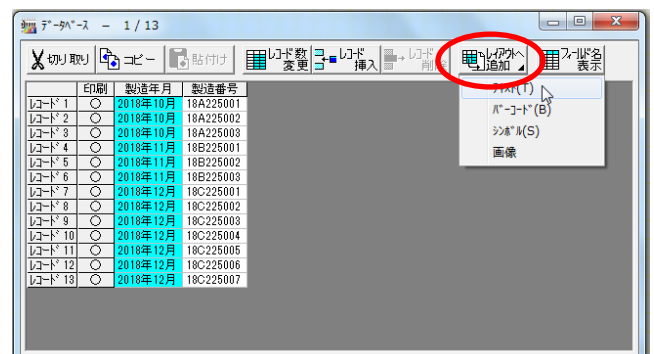


## ⑤ 「データベースの選択」画面で「銘板.csv」を選択し「開く」をクリックします。

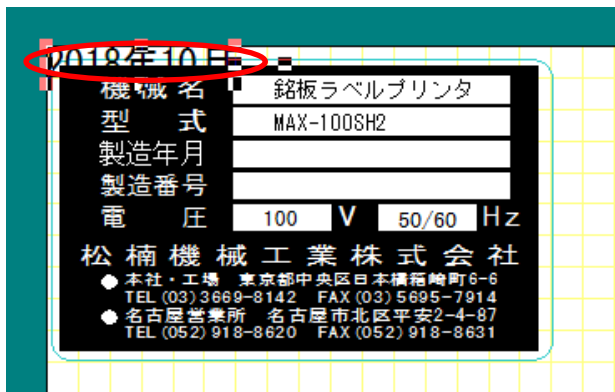


▼  
データベースウィンドウが表示されます。

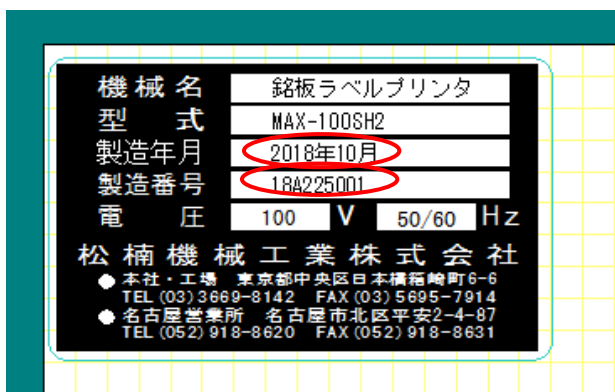
## ⑥ 「製造年月」をクリックして列を青色に選択した後、「レイアウトへ追加」をクリックして「テキスト」を選びます。



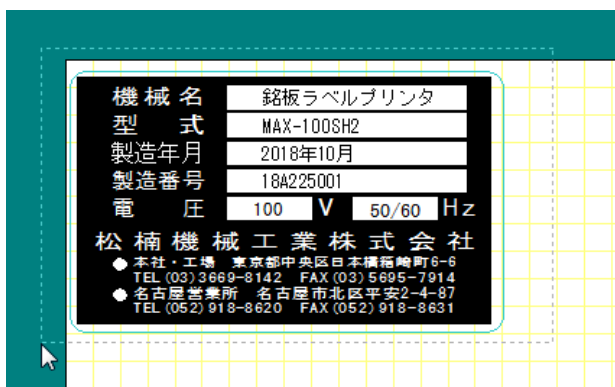
レイアウトの左上に「製造年月」のレコード1がテキストで貼り付きます。



- ⑦ 同様に「製造番号」のレコード1を貼り付けた後、「製造年月」、「製造番号」のテキストをレイアウトに配置します。

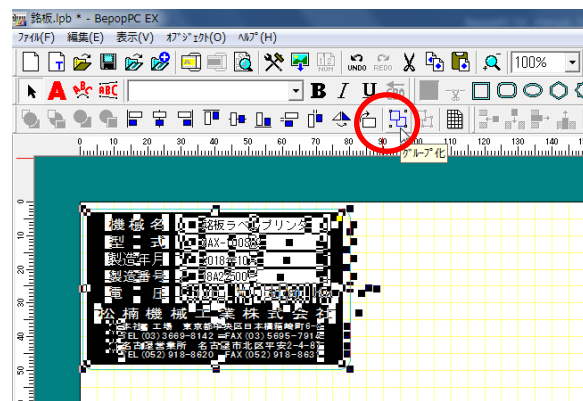


- ⑧ カーソルでオブジェクト全体を選択します。

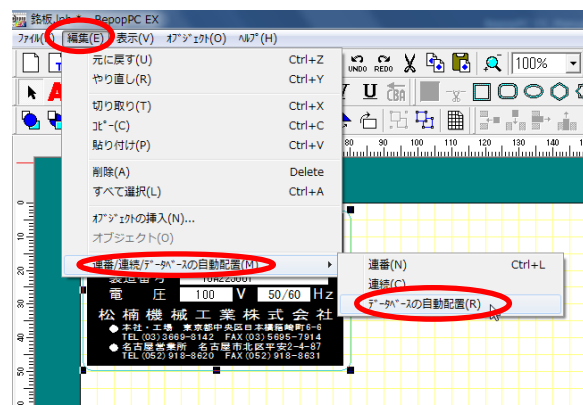


すべてのテキストボックスの周囲に「■」が表示されます。

- ⑨ オブジェクトバーの [グループ化] をクリックします。



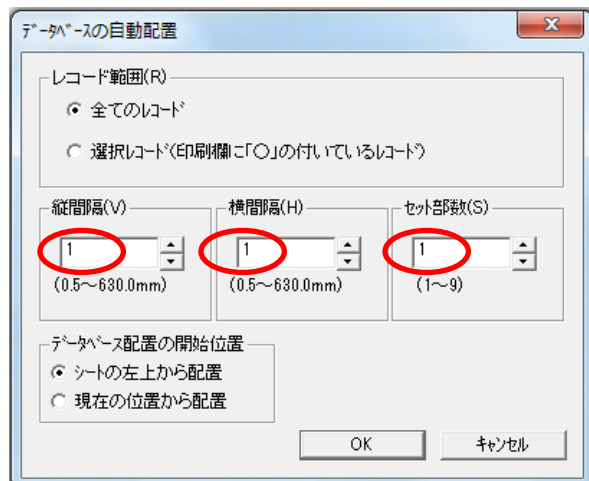
- ⑩ メニューバーの「編集」 - 「連続/連番/データベースの自動配置」 - 「データベースの自動配置」を順に選択します。



「データベースの自動配置のプロパティ」が表示されます。

- ⑪ 「レコード範囲」、「縦間隔」、「横間隔」、「セット部数」、「データベース配置の開始位置」を設定します。

例として「縦間隔」、「横間隔」を「1」、「セット部数」を「1」と設定します。



## 「レコード範囲」

自動配置するレコードの範囲を設定します。

## 「セット部数」

同じレコードを複数作成する際の枚数を設定します。

## 「縦間隔」・「横間隔」

オブジェクトをシート上に連続で配置した際の、縦間隔・横間隔を設定します。

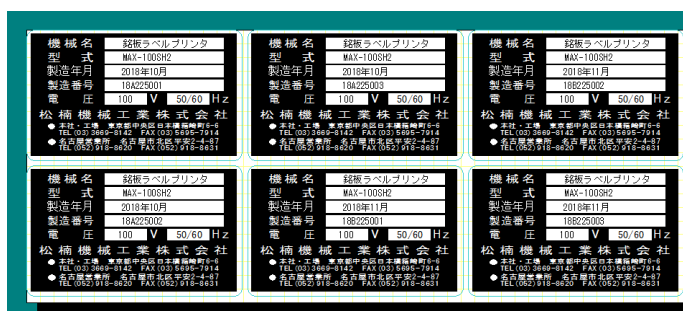
## 「データベース配置の開始位置」

データベースリンクされたオブジェクトの自動配置開始位置を選択します。

### ⑫ 各項目を設定後「OK」をクリックします。



選択されたレコードを差し込んだオブジェクトが縦・横とも 1mm 間隔で自動配置されます。



※自動配置を行うとデータベースとのリンクは解除されます。

### ⑬ ツールバーの [印刷] または [カラフル印刷] をクリックし印刷を実行します。

以上で終了です。